

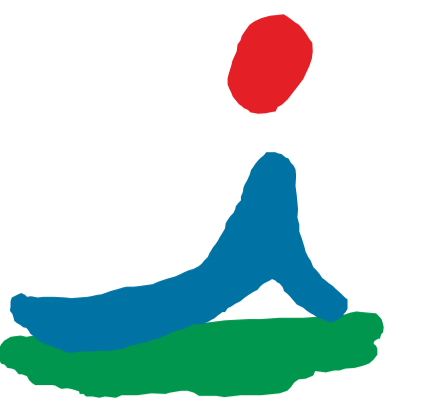


印旛脳卒中地域連携パス (InCliPS) のウェブサイトの検証

三品雅洋^{1,2}、小林士郎¹、原行弘³、片山泰朗²

¹日本医科大学千葉北総病院 脳神経センター ²日本医科大学内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門

³日本医科大学千葉北総病院 リハビリテーション科



背景

千葉県は回復期リハビリテーション病院が少なく、特に日本医科大学千葉北総病院がある印旛保健医療圏には1施設もない。そのため、東葛南部・北部の施設にリハビリテーションを依頼していた。2008年度の診療報酬改定を控え、2007年7月脳卒中地域連携パス作成を着手した。完成した印旛脳卒中地域連携パス (Inba Clinical Pathway for local Stroke network, InCliPS) は、保険診療認可を待たずに2008年3月より運用開始、2009年4月現在急性期3施設、回復期9施設、維持期4施設、かかりつけ医28施設が参加している (図1)。

2008年3月1日～2009年2月28日のInCliPS運用実績は、急性期脳卒中495例のうち158例 (31.9%) であった。パス適用例は重症が多数占めることを明確にし、一部施設への重症例偏在の是正に寄与するなど、脳卒中地域連携パスは、情報伝達ツールだけでなく、脳卒中に関わる地域医療全体の診療状況の把握と改善に有用であった (三品雅洋ら、第34回日本脳卒中学会総会、2009年3月、松江)。



急性期:3施設 日本医科大学千葉北総病院 東京女子医科大学八千代医療センター 東邦大学医療センター佐倉病院	療養型施設:4施設 勝田台病院 佐倉厚生園 佐原中央病院 介護老人保健施設さんふらわ	山口内科・循環器科クリニック 高柳胃腸科外科内科 内田医院 白銀クリニック 金子メディカルクリニック そめのクリニック 六戸内科医院 かみにし内科医院 古谷内科 天本クリニック 国保医院 小田内科医院 黒田内科診療所 坂本医院 たもつ内科小児科医院 神崎クリニック 榎戸クリニック まさこクリニック
回復期:9施設 新八千代病院 千葉・柏リハビリテーション病院 八千代リハビリテーション病院 平和台病院 九十九里病院 南ヶ丘病院 船橋市立リハビリテーション病院 東京湾岸リハビリテーション病院 つくばセントラル病院	かかりつけ医:30施設 今井医院 印西診療所 安孫子内科胃腸科クリニック 千葉新都市ラーバンククリニック 白井由井内科 豊田脳神経外科 おかわ内科 つがねざわ医院 いしはし内科クリニック 石橋医院 松浦医院 プライマリケアさくらがわクリニック	

図1. InCliPS参加施設

目的

2008年1月14日にInCliPSのウェブサイトを立ち上げ¹、連携パスフォーマットのPDF配布や情報提供を開始した。本研究では、そのウェブサイト閲覧の実態を調査した。

¹ <http://plaza.umin.ac.jp/~mishina/path/>、現在<http://www.nms.ac.jp/ni/inclips/>に移動

方法

ウェブページはAdobe Dreamweaver CS3・CS4のテンプレートを編集して作成した (図2)。Google Analytics²を用いて、2008年6月11日～2009年3月31日のウェブサイトのセッション数³、直帰率⁴、アクセス地域、キーワード、使用した検索サイトを集計した。

² <http://www.google.com/analytics/ja-JP/>

³ セッション数は、サイトのすべてのユーザーによって行われた個々のセッション (訪問) の数を表す。ユーザーがお客様のサイトで30分以上操作を行なわなかった場合、それ以降の操作は新しいセッションとみなされる。いったんサイトを離れたユーザーが30分以内に同じサイトに戻ってきた場合は、最初のセッションの一部としてカウントされる。

⁴ 直帰率とは、閲覧開始ページからサイトを離れた訪問、つまり1ページだけ閲覧したセッション数の割合で、セッションの質を評価することができる重要な指標のひとつ。一般的に直帰率が高い場合は閲覧開始ページのコンテンツと、ユーザーの興味関心との関連性が低いと考えることができる。リンク先ページが魅力的なものであれば、ユーザーはより長くサイトに滞在し、コンバージョン数も増加する可能性が高まる。一般的な企業のサイトでは40%が目安とされ、70%以上ではトップページしか閲覧されていない割合が高いと判断される。



図2. InCliPSのウェブサイトのトップページ

結果 1

調査期間のセッション数は5,233 (ユーザー数3,795) であった。平均サイト滞在時間は1分36秒、直帰率は65.2%であった。セッションのうち72.0%が新規閲覧、28.0%が2回目以降の閲覧であった。

アクセスがあった地域は、横浜380件、市川265件、新宿241件、東京都下235件、渋谷190件、大阪182件、千葉138件、千代田131件、名古屋107件、札幌103件など、全国からのアクセスがあった (図3)。

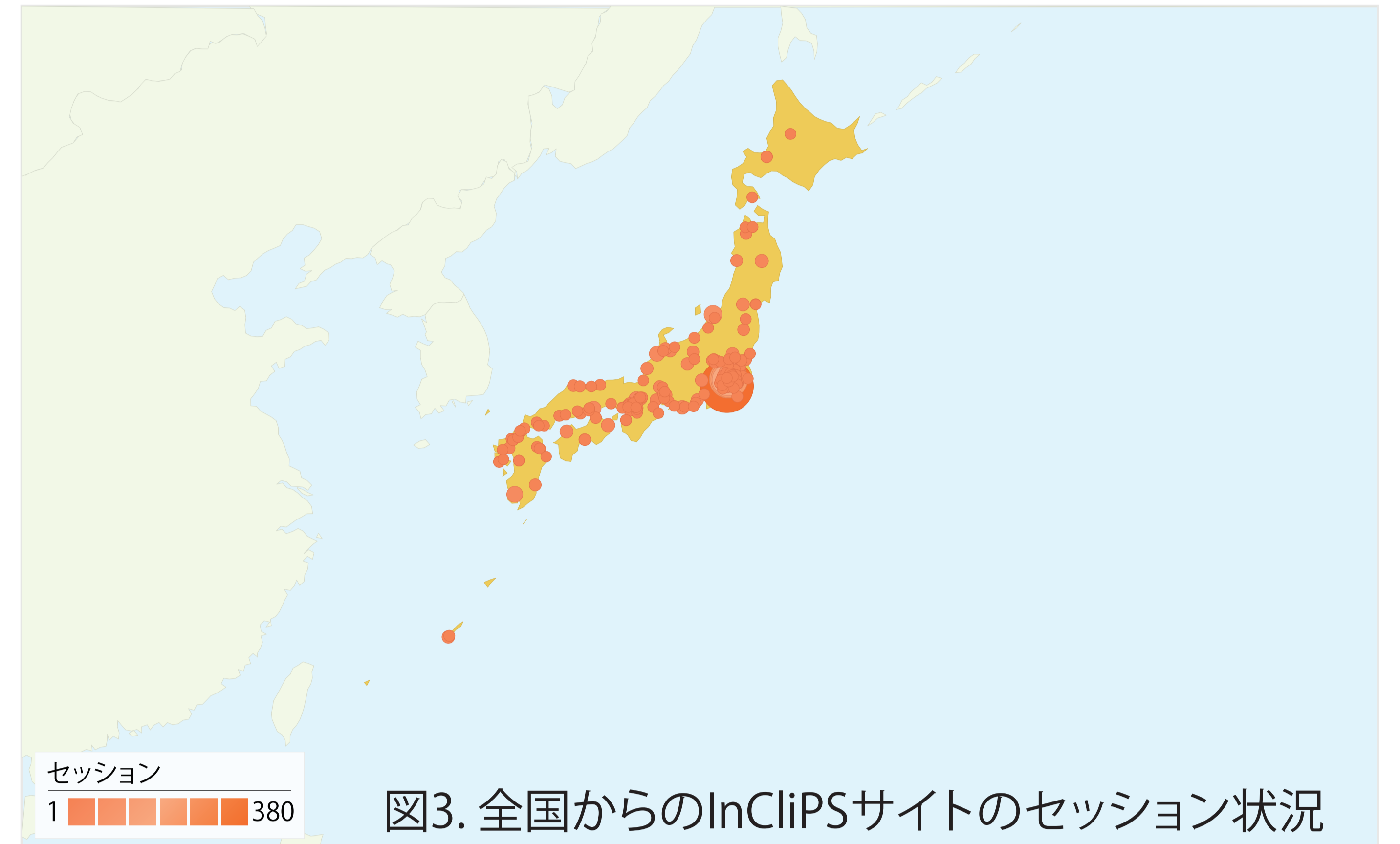


図3. 全国からのInCliPSサイトのセッション状況

結果 2

参照元は、検索エンジンが71.4%、他サイトからのリンクが21.6%、URL直接入力が入力が7.0%であった (図4)。Yahoo 41.9%、Google 25.1%、三品雅洋のブログのリンク9.0%、日本医科大学のリンクが5.6%であった。

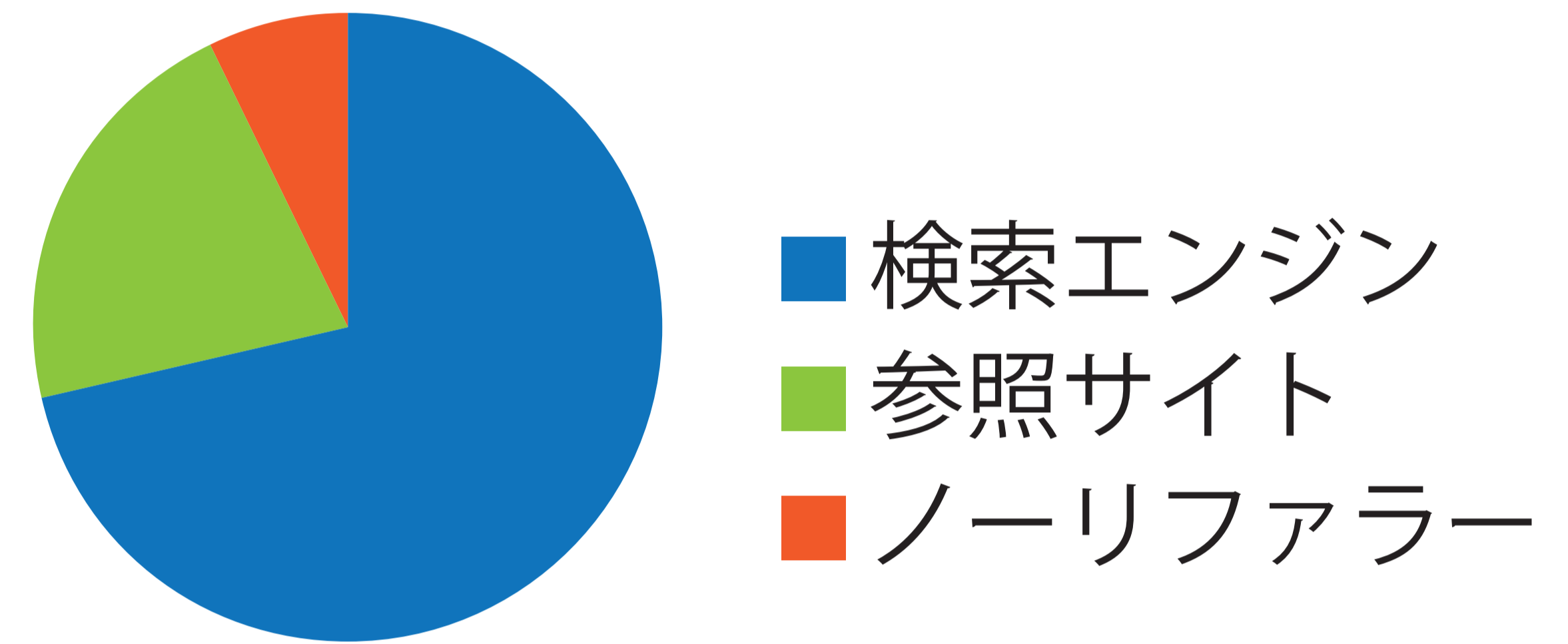


図4. 参照元の割合

結果 3

検索サイトでの検索キーワードは、表1に示した。

表1. 検索サイトで使用された検索キーワード

キーワード	セッション	割合	滞在時間	直帰率
地域連携パス	768	14.7%	0:02:01	71.5%
脳卒中地域連携パス	492	9.4%	0:02:14	65.7%
脳卒中連携パス	201	3.8%	0:02:07	67.1%
脳卒中 地域連携パス	155	3.0%	0:01:44	59.1%
地域連携パス・脳卒中	111	2.1%	0:03:51	76.8%
脳卒中パス	90	1.7%	0:02:29	63.6%
印旛脳卒中地域連携パス	65	1.2%	0:02:13	35.3%
脳卒中・連携パス	74	1.4%	0:01:13	66.7%
連携パス	73	1.4%	0:01:47	71.7%
脳卒中・パス	47	0.9%	0:01:07	63.6%
脳卒中・地域連携	42	0.8%	0:02:58	56.7%
地域医療連携パス	28	0.5%	0:01:54	56.3%
千葉県・連携パス	25	0.5%	0:00:47	53.9%
脳卒中地域連携	35	0.7%	0:02:20	68.0%
千葉県・地域連携パス	20	0.4%	0:01:37	50.0%
印旛脳卒中	31	0.6%	0:00:49	61.1%
地域連携パス・診療報酬	25	0.5%	0:03:03	90.5%
連携パス・脳卒中	23	0.4%	0:03:50	70.0%
地域連携・脳卒中	17	0.3%	0:02:22	33.3%
脳梗塞パス	21	0.4%	0:00:22	82.4%

コメント

ページへのキーワードの埋め込み、個人のブログのリンク、講演や医師会での説明会など、サイトの最適化と広報活動を行った。GoogleやYahooなど主要検索サイトにおいて「脳卒中地域連携パス」を検索すると、InCliPSは1～2位でヒットするようになり、ウェブサイトもInCliPSメンバーへの連絡・フォーマット配布・広報で重要な役割を担っている。

今回使用したGoogle Analyticsは、Googleが提供する無料のサービスである。ユーザー登録と提供されるトラッキングコードをページにコピーするだけで、アクセスカウンターでは得られない情報が把握でき、ウェブサイトの運営には非常に有用であった。

当該地域限定ではなく全国からアクセスがあること、検索キーワードでは「パス」関係が多いことより、閲覧者は主に脳卒中地域連携パスに興味がある医療関係者であると考えられる。しかし直帰率は65.2%と高く、閲覧者のニーズには不十分であることが示唆された。今後は、脳卒中地域連携パスの解説のページを作るなど、コンテンツを充実する予定である。

検索キーワードからは一般市民のアクセスは少数と予想され、一般市民へのInCliPSの認知には寄与していなかった。脳卒中を解説するページを作るなど、InCliPSのサイトに誘導する工夫が必要であろう。

パス作成は急性期病院スタッフの、連携パス乱立は回復期施設の負担になっている。在宅医療推進はかかりつけ医の負担になる。その対策として、千葉県では全県共用の脳卒中地域連携パスを完成させた。InCliPSも千葉県共用パスへ移行する予定で、地域全体の脳卒中診療体制改善に役立っている。

サイトを移動しました

<http://www.nms.ac.jp/ni/inclips/>